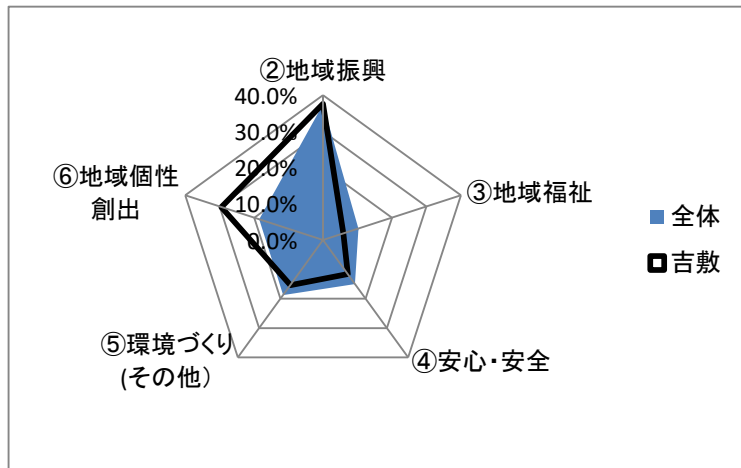


吉敷地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和2年度)

■地域の情報

地域人口	14,633人	自治会数	16
世帯数	6,337世帯	自治会加入率	77.1%

※数値は、令和3年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,892,000 円
交付金決算額	9,696,286 円
その他収入	3,438,828 円
交付金決算額/配分額	98.0%

各分野の決算

①協議会運営	7,435,481 円
②地域振興	2,143,793 円
③地域福祉	334,480 円
④安心・安全	662,085 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	876,188 円
⑥地域個性創出	1,683,087 円
決算総額	13,135,114 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり「みんなで支え合う笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

活動目標1「地域振興」ふれあいと交流による元気で住みよいまち

活動目標2「地域福祉」とともに支え合い心豊かに暮らせるまち

活動目標3「安心・安全」みんなで協力してつくる安心で安全なまち

活動目標4「環境づくり」美しい自然をみんなで守る快適なまち

活動目標5「地域個性創出」固有の歴史や文化による個性あふれるまち

■総括

「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。しかし、今年度は、コロナ禍の影響を受け、中止を余儀なくされたものが多く、大変残念な年でした。

その中でも、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」では、イベントが少なくなっても関わらず応募作品の増加が見られました。また、地域ぐるみによる見守り活動の仕組みづくりにも取り組む「ふれあいネットワーク協議会」により、関係団体との意見交換後、デザインを変更した見守りグッズの作製や、一体的な見守りのためのグッズを作ることができ、地域全体で見守りを推進する素地ができました。緊急事態宣言が出され、徐々にコロナ感染拡大防止に努めながらの生活に慣れるにつれ「コロナ禍であるからこそできることは何か」を考える機会が多くなりました。その中でも今年度の秋の祭り「吉敷ふるさとまつり」では、実行委員会メンバーにより、交流センター内で感染拡大を防止しながらでもできることを探すことができました。このように、地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての地域住民の話し合いの場となってきています。

また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっています。そのため、地域住民の意見を把握するために行われたアンケート調査結果を基にコミュニティタクシー運行を検討する「吉敷地域コミュニティタクシー実証運行協議会」を設置し、令和3年度から実証運行をすることが決まりました。

地域情報を広く地域住民に伝えるために、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めながら5年が経過し、この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、作る側と読む側の双方向で意見交換ができるコーナーを新たに設けるなど、広報紙を手にとっていただけるよう工夫を重ね、取り組みました。地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては優秀賞を受賞することができ、毎年賞をいただいています。

地域の史跡等の案内板設置への取り組みについては、今年度は特に山口市交流促進特別交付金を獲得し、吉敷を縦断する肥中街道にQRコードを付けた柱(道標)を設置し、地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。

■分野別事業名

①	協議会運営	協議会運営
②	地域振興	ふれあいネットワーク、コミュニティタクシー導入事業、夏まつり・ふるさとまつり、よしきフォトコンテスト、人材発掘に向けた交流事業、広報活動、人権学習の推進、こどもドリームプロジェクト、ホテル観賞の夕べ、動画による活動団体の紹介
③	地域福祉	大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ大会、えがお食堂よしき、
④	安心・安全	地域防災体制の充実、交通安全・防犯対策、反射鏡の充実、青少年の健全育成
⑤	環境づくり	環境づくり、ホテル増殖・放流事業
⑥	地域個性創出	文化振興

■重点的に取り組んだ事業

事業名	コミュニティタクシー導入事業	決算額	335,020円
①	目的	旧出張所・公民館跡地を積極的に活用するために、跡地を拠点としたコミュニティタクシーの運行を検討するとともに、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。	
	実施内容	コミュニティタクシー導入に係る地域住民のニーズを把握するために昨年度実施したアンケートを基に、吉敷地域の実情に見合ったコミュニティタクシー実証運行協議会を立ち上げ、運行計画を策定することができました。	
	実施時期	通年	
	参加人数	地域住民	
	成果	高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化されることが見込まれる中、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入のための素地ができました。	
	評価	跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携や担当役員のフットワークにより、協議会の設置や、コミュニティタクシーの周知、停留所等設置に向けての手続きなどがスムーズに進みました。しかし、市に提出する申請書等の手続きについては、年度末に処理が集中するなど、事務処理の進め方や交流センターとの連携については大きい課題が残りました。	
	今後に向けて	実証運行で、多くの地域住民が利用できるように広報活動を推進し、本格運行の実施に向けて、吉敷地域コミュニティタクシー実証運行協議会を設置し、そこでは運行計画を作成しました。	
事業名	文化振興	決算額	1,679,087円
	目的	固有の歴史や文化による個性あふれるまちづくりを推進します。	
	実施内容	地域散策イベントや郷土学習講座の開講、文化財の活用に向けた調査・検討など、文化による地域づくりに取り組みます。案内板の整備や文化遺産資料の収集、文化の保存・継承に取り組みました。コロナ禍の影響を受け、散策イベントは中止となりましたが、郷土学習会には、地域を超えた参加者も多く好評を得ました。また、プレゼンテーションの審査を経て、交流促進特別交付金を得ることができたため、肥中街道の要所要所に石柱で道標を設置することができました。	
	実施時期	通年	

②	参加人数	地域住民		
	成果	<p>例年好評を博している散策バスツアーは実施することはできませんでしたが、緊急事態宣言が解除された後は、毎月会議を開き、コロナ禍でもできることを模索したり、その他、地域づくり協議会のウェブサイトにて肥中街道の取り組みを掲載するなど広報と整備の充実に努めました。昨年に引き続き、古文書を教材とした「古文書読書会」を開催しました。多くの方に吉敷地域を知り、散策していただくため、今年度は肥中街道の大看板を設置し、文化の保存・継承に取り組みました。歴史的文化遺産を目で見て認識することができるようになったことの意味は大きいと感じています。</p>		
	評価	<p>大内氏の海外通商ルートでもあった肥中街道を演題とした講演会を開催したところ、地域を超えた参加者も多く好評を得ました。地域住民が肥中街道に興味のあることが分かります。肥中街道の拡大案内看板の設置や凌雲寺跡の案内板の設置により、住民に吉敷地域を散策してもらうための基盤づくりができました。</p>		
	今後に向けて	<p>引き続き、多くの地域住民の参加が得られる地域散策講座や郷土学習講座、歴史等散策ツアーの開催などに取り組み、文化による地域住民の交流をさらに進めていきます。</p>		
③	事業名	ふるさとまつり	決算額	60,348円
	目的	<p>地域住民のふれあいや交流の場として祭りを開催して、地域コミュニティを深め、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。</p>		
	実施内容	<p>若者を中心とする実行委員会により、コロナ禍により新しい生活様式に対応した開催について活発な意見交換を行いました。その結果、新たな試みとして活動団体による動画の上映会を行うなど文化活動の成果発表をメインとしたふるさとまつりを開催することができました。</p>		
	実施時期	11月8日		
	参加人数	400人		
	成果	<p>活発な意見が交わされ、新しいアイデアに積極的に取り組むなど、吉敷の祭りに新たな風を吹き込むことができました。</p>		
	評価	<p>新たな企画により、多くの参加者とのふれあい、交流が図られるとともに、新たな実行委員会を中心とした運営を進めるための基盤づくりが確立されつつあります。</p>		
	今後に向けて	<p>新たな委員による実行委員会を継続するため、事務局との役割分担等を検討するとともに、楽しく関われる会にするには実行委員どうしの交流も必要であるため交流にも取り組みます。</p>		